

## ミュージアム・マネジメントの実践（2）

### —新十日町市博物館の取り組み—

Practice of the museum management 2: Approach of the new Tokamachi City Museum.

石原 正敏<sup>1</sup>

ISHIHARA Masatoshi

新しい十日町市博物館（以下、「新博物館」）は、令和2（2020）年6月に開館した。新博物館の基本理念は、「市民・来館者と共に考え、活動し、成長する博物館」である。十日町市の多様で豊かな自然と歴史・文化について、市民・来館者と共に探求し、保全・継承し、その価値を国内外に発信することをビジョンとしている。新博物館は生涯学習の拠点であるとともに、情報発信の拠点という機能を有する。展示は実物資料を中心とし、映像、音声、模型、参加体験型展示等の手法を取り入れ、誰もが親しめるわかりやすい展示となるように工夫した。また、解説文、音声ガイド、タッチパネル等の多言語化、ミュージアムショップ等のキャッシュレスに取り組んでいる。

本稿では、資料の収集、整理、保管（収蔵）、調査、研究という博物館機能の中から、資料の収集、実物資料や写真資料など資料貸出、博物館実習、職場体験などを取り上げ、史跡の保存と活用（火薬の都整備事業）の現状についてふれる。新博物館開館後の約3年間を振り返るとともに、関係データを再整理し、新博物館の現状と課題について検討することを本稿の目的とする。博物館活動においては「調査研究」、「情報発信と公開」が喫緊の課題であり、文化財の保存と活用においても、多くの課題がある。それらを踏まえ課題解決に向けた方向性や方法等について考察する。

#### 1. はじめに

十日町市博物館は、昭和54（1979）年の開館以来、「妻有地方の自然と文化」をテーマに、基本理念に掲げた「市民生活に密着した実物教育機関として、いつでも誰でも見たり、調べたりできる、市民のための博物館」を目指して様々な活動を展開してきた（竹内2002ほか）。その中で、重要有形民俗文化財「越後縮の紡織用具及び関連資料2,098点」（昭和61年指定）、同「十日町の積雪期用具3,868点」（平成3年指定）、火焰型・王冠型土器群をはじめとする国宝「新潟県笹山遺跡出土深鉢形土器57点（附871点）」（平成11年指定）などが生まれ出されている。そして、平成26（2014）年から準備を始め、開館41年目となる令和2（2020）年6月

1日に新しい十日町市博物館（以下、「新博物館」）がオープンした。新博物館の基本理念は、「市民・来館者と共に考え、活動し、成長する博物館」である。十日町市の多様で豊かな自然と歴史・文化について、市民・来館者と共に探求し、保全・継承し、その価値を国内外に発信することをビジョンとしている。新博物館は生涯学習の拠点であるとともに、情報発信の拠点という機能を有する。展示は実物資料を中心とし、映像、音声、模型、参加体験型展示等の手法を取り入れ、誰もが親しめるわかりやすい展示となるように工夫した。また、解説文、音声ガイド、タッチパネル等の多言語化、ミュージアムショップ等のキャッシュレスに取り組んでいる。

前稿では、旧博物館における40年の活動の歩みを振

1 十日町市博物館 〒948-0072 新潟県十日町市西本町一丁目448番地9

り返り、耐震改修・展示リニューアルから新博物館の建設への方向転換、新博物館の展示の特徴、開館後およそ1年半の運営にあたって留意したことなどについて紹介した（石原2022）。合わせて、雪文化三館提携や信濃川火焰街道連携協議会など広域連携や地域連携の取り組み、文化資源の魅力増進の取り組みなどについて紹介するとともに、課題と課題解決に向けた取り組み等について考察した。しかし、紙数に限りがあり、実物資料・写真資料など資料の貸出、博物館実習、職場体験などについては、取り上げることができなかった。新博物館開館後のおよそ3年間を振り返るとともに、関係データを再整理し、新博物館の現状と課題について検討することを本稿の目的とする。

## 2. 資料の収集・整理・保管について

### （1）博物館の機能

博物館には、いわゆる「表の顔と裏の顔」がある。資料の収集、整理、保管（収蔵）、調査、研究という仕事は裏の顔であり、展示や教育普及などが表の顔である。新博物館においては、文化財課と博物館という2つの組織が、車の両輪のごとく日々の業務に取り組んでいる。博物館が新博物館と旧博物館の維持管理を所管している。文化財課では、市民の郷土に対する認識を深め、教育、学術及び文化の向上図るため、松之山郷民俗資料館、笹山縄文館の維持管理及び公開を行っている。また、歴史、民俗及び考古に関する資料を収蔵するため、中里、高道山、川西、高倉の4つの文化財資料収蔵庫の維持管理を行っている。

### （2）資料の収集と整理・保管

十日町市博物館資料の特徴は、埋蔵文化財資料を除く大部分が市民からの寄贈品によって成り立っていることである。特に民具資料は、ほぼ100%寄贈品である。多くは市民からの情報で、家の改築時などに職員が立ち会い、持ち主の了解を得て収集してきたもので、中にはわざわざ資料を持参して下さる市民も多い。博物館及び館外収蔵庫の収容量が限られているため、受け入れの可否については、同種の資料が既に一定の点数収蔵されていないか、展示及び貸出（使用）に耐えうる保存状況か、おおよその製作・使用年代がわかっているかなどを判断基準としている。資料の収集については表1、古文書等歴史資料の整理・保管については表2の通りである。

松之山郷民俗資料館、笹山縄文館、4つの文化財資料収蔵庫のそれぞれの概要は以下のとおりである。

#### ●松之山郷民俗資料館

所在地：十日町市松之山湯山264番地、設置根拠：十日町市資料館条例（平成17年4月1日 条例129号）、敷地面積：1,057m<sup>2</sup>、延床面積：305.97m<sup>2</sup>、運用開始：昭和52年5月1日

#### ●笹山縄文館

所在地：十日町市中条乙3081番地2、設置根拠：十日町市笹山縄文館条例（平成23年3月17日 条例11号）、敷地面積：894m<sup>2</sup>、延床面積：458.71m<sup>2</sup>、運用開始：平成23年4月1日

#### ●中里文化財資料収蔵庫

所在地：十日町市本屋敷丁65番地1、設置根拠：十日町市文化財資料収蔵庫条例（平成17年4月1日 条例130号）、敷地面積：1,587.54m<sup>2</sup>、延床面積：526.15m<sup>2</sup>、運用開始：平成17年4月1日

#### ●高道山文化財資料収蔵庫

所在地：十日町市白羽毛辰697番地、設置根拠：十日町市文化財資料収蔵庫条例（平成17年4月1日 条例130号）、敷地面積：2,621m<sup>2</sup>、延床面積：346m<sup>2</sup>、運用開始：平成26年10月1日

#### ●川西文化財資料収蔵庫

所在地：十日町市友重乙29番地1、設置根拠：十日町市文化財資料収蔵庫条例（平成17年4月1日 条例130号）、敷地面積：1,116m<sup>2</sup>、延床面積：516.54m<sup>2</sup>、運用開始：平成21年4月1日

#### ●高倉文化財資料収蔵庫

所在地：十日町市高倉戊876番地、設置根拠：十日町市文化財資料収蔵庫条例（平成17年4月1日 条例130号）、敷地面積：4,920m<sup>2</sup>、延床面積：270.60m<sup>2</sup>、運用開始：平成23年4月1日

中里文化財資料収蔵庫の収蔵スペースが不足し、埋蔵文化財資料の整理作業が困難になってきたため、高道山地区振興会、関係区長（高道山・朴木沢・宮沢・市之越・鷹羽・白羽毛・程島・東田尻）、地元集落住民および関係機関と協議を行い、同地区の高道山体育館を文化財資料収蔵庫として使用することになった。これに伴い、平成26（2014）年10月にスポーツ振興課から文化財課への所管替えを行った。また、収蔵庫として利用するため、施設改修と電灯修繕を行い、スチール棚（50台）を設置した。これにより、新たな収蔵スペースとして約230m<sup>2</sup>を確保することができた。これとは別に、川西文化財資料収蔵庫にスチール棚（15台）を設置した（十

日町市博物館編 2015)。施設の老朽化に伴う対応、令和元年度から休館中となっている松之山郷民俗資料館の取扱い及び文化財資料収蔵庫の統廃合、収蔵資料の台帳化などが課題である。

### (3) 調査・研究活動について

#### ①博物館は研究機関

博物館法の第1章第2条では、博物館の定義として、「博物館は歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集、保管、展示して、教育的配慮の下に公衆の利用に供すること」とある。博物館を教育機関とする所以はここにあり、この教育的配慮が現在の博物館事業の根底にある。教育機関としてのあり方とは別に、博物館法において博物館は研究機関であると規定している。博物館法の第3条第1項には、その四に博物館の事業として「博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと」を掲げ、博物館の調査研究の重要性を述べている。この専門的な調査研究の担い手は学芸員である。学芸員については、博物館法第4条第3項に、博物館の専門的職員としての学芸員の位置付けが規定され、同第4項には「学芸員は、資料の収集、保管、展示及び調査研究をはじめ専門的事項をつかさどる」として、博物館の専門的な調査研究が主として学芸員に委ねられていることが明記されている。しかし、新博物館においては、調査・研究活動の多くを文化財課が担っている。

### (2) 古文書等歴史資料関係

文化財課文化財保護係では、古文書等歴史資料の調査・研究に継続的に取り組んでいる。平成24年度より十日町情報館が指定管理になったことに伴う組織改編により、古文書等歴史資料に関わる事業が文化財課文化財保護係へと移管された。①山内景行家写真資料の整理・活用、②蕪木元昭家文書（加賀屋文書）の調査・研究、③古文書等歴史資料の収集・整理の3つで構成され、これらは全て移管前からの継続事業である。

#### ①山内景行家写真資料の整理・活用

新潟県中越大震災での被災を機に、明治から100年の歴史を持つ「旧・山内写真館」の所蔵写真約48,000カットが十日町市に寄託された。これを受けて平成22年10月から、十日町市古文書整理ボランティアと十日町情報館が協働して、写真を活用できるようにするため、

写真1点1点の内容情報（時代・場所・状況など）を調査し、写真資料カードに記録する作業に取り組んできた。平成24年3月までの第1期・第2期整理作業の結果、約4,000枚の資料カードが記入されている。平成24年度より文化財課が主管となり、令和4年度は第13期整理作業が行われている。

写真整理作業の成果を公開し、さらなる情報収集を図るため、写真展を開催しており、令和4年度で第14回目となる。また、旧・山内写真館資料48,000点のうち3,047点の写真画像が、国の取組みである「ジャパンサーチ」に掲載され、令和3年9月から誰でも気軽に検索・閲覧ができるようになった。

#### ②蕪木元昭家文書（加賀屋文書）の調査・研究

新潟県中越大震災で被災し、十日町市に寄託された62,000点の蕪木元昭家（縮問屋加賀屋）の歴史資料整理保存作業は、3年の歳月をかけて十日町情報館と市民ボランティアが共同して実施し、平成19年11月に歴史資料目録全8巻がまとめられ、研究活用の基盤が整えられた。そこで、資料群の全体的な内容解説と理解を深める中核的な人材育成を図り、あわせて資料研究と活用のさらなる素地づくりを進めるため、平成20年6月、加賀屋文書研究会が設立された。研究会は月1回のペースで開催され、令和2年11月に第130回研究会が開催されている。

#### ③古文書等歴史資料の整理

十日町市への寄託・寄贈資料のうち、古文書等歴史資料については、燻蒸後、情報館収蔵庫に保管し、整理作業を行ってきた。令和元年度には、古文書等歴史資料を十日町情報館から旧博物館に移動し、新博物館2階の研究室で整理作業を行っている。

## 4. 新博物館の運営と教育普及・展示事業の概要

### (1) 令和2年度

令和2年度の職員体制は、正職員12名、会計年度任用職員4名でスタートした。正職員は博物館4名、文化財課8名（課長、課長補佐を含む）であり、互いに兼務する形となっている。会計年度任用職員は、全て博物館の所属である。博物館には業務係、文化財課には文化財保護係、埋蔵文化財係の2係がある。土曜、日曜、祝休日については、正職員も当番勤務のローテーションに組み込まれる。年度途中異動のため、文化財課の正職員が

1名減となった。

展示事業では、新館オープン記念・夏季企画展「国宝・笛山遺跡出土深鉢形土器のすべて」、新館オープン記念・秋季特別展「縄文の遺産－雪降る縄文と星降る縄文の競演－」、特設展示「昔の道具」、冬季企画展「マジョリカお召と黒絵羽織」を開催した（表3）。普及事業のうち、博物館講座は縄文をテーマとして8月の土曜日（午後）に全3回シリーズで開催の予定であったが、首都圏における新型コロナウイルス感染症の再拡大を受け、急遽中止とした。そのほか、古文書入門講座、子ども博物館を開催した。令和2年度の入館者は、25,936名であった（十日町市博物館編2021b）。入館者の内訳は一般（有料）17,170名、一般（免除）3,982名、中学生以下4,784名であった。学校等団体は保育園6園、小学校28校、中学校17校、高校・専門学校・大学8校、子ども関連団体3団体であり、視察・見学等は107団体であった。令和2年度の決算額は44,010千円であるが、施設維持管理にかかる経費は19,255千円であった（表4、施設維持管理にかかる経費には会計年度任用職員の入件費を含み、正職員の入件費は除く）。

## （2）令和3年度

令和3年度は正職員11名、会計年度任用職員4名の体制でスタートした。年度初めに決めた職務分掌にそって事業を進めたが、事業の進捗状況や業務量を勘案して適宜見直しを行った。展示事業では、新館オープン1周年記念・夏季特別展「形をうつす－文化財資料の新たな活用－」、夏季企画展「形の移り変わり－縄文から現代まで」、新館オープン1周年記念・秋季特別展「岡本太郎が見て、撮った縄文」、特設展示「昔の道具」、冬季企画展「明石ちぢみと十日町小唄」を開催した（表5）。普及事業では、博物館講座「縄文を学ぶ」、古文書入門講座、子ども博物館を開催した。また、新館オープン1周年記念事業の一つとして、愛称募集を行い、「TOPPAKU」に決定した。令和3年度の入館者は、23,882名であった（十日町市博物館編2022）。入館者の内訳は一般（有料）14,957名、一般（免除）4,783名、中学生以下4,142名であった。学校等団体は保育園1園、小学校32校、中学校19校、高校・専門学校・大学9校、子ども関連団体2団体であり、視察・見学等は52団体であった。市内の小・中学校等に授業等での博物館利用の呼びかけをするとともに、新潟県博物館協議会の運営研究会（7月）、新潟県歴史資料保存活用連

絡協議会の歴史資料保存活用研修会（11月）などの受入れにも取り組んだ。令和3年度の決算額は58,814千円であるが、施設維持管理に係る経費は32,664千円であった（表6、施設維持管理にかかる経費には会計年度任用職員の入件費、物品販売仕入れ料を含み、正職員の入件費は除く）。

## （3）令和4年度

令和4（2022）年度は正職員10名、会計年度任用職員5名の体制でスタートした。年度初めに決めた職務分掌にそって事業を進めたが、正職員1名が療養休暇となつたため、事業の進捗状況や業務量を勘案して適宜見直しを行った。展示事業では、春季企画展「市民からの贈り物」、夏季企画展「里山の石仏－松之山の祈りと信仰－」、本ノ木・田沢遺跡群国史跡指定3周年記念・秋季特別展「縄文時代の始まりを探る」、特設展示「昔の道具」、冬季企画展「雪国の食べものがたり」を開催した（表7）。普及事業では、博物館講座「究極の雪国を学ぶ」、古文書入門講座、子ども博物館を開催した。

令和4年度の予算額は54,512千円であるが、施設維持管理に係る経費は35,865千円である（第8表、施設維持管理にかかる経費には会計年度任用職員の入件費、物品販売仕入れ料を含み、正職員の入件費は除く）。令和4年度の入館者は、26,319名である（令和5年3月12日現在）。市内の小・中学校等に授業等での博物館利用の呼びかけをするとともに、議会等の行政視察、県内外の修学旅行生はもとより、（株）クラブツーリズム「歴史への旅 長野・新潟の縄文遺跡」・「八ヶ岳山麓の縄文遺跡」、新潟交通の旅くれよん、塩沢江戸川荘、しばたミュージアム設立推進市民会議、鮎川義塾新潟校、青山きもの学院などの団体受入れに積極的に取り組んだことにより、入館者数は令和2年度、3年度を上回った（表9）。P D C A サイクルによる事業の総括・検証、見直しを行う必要があり、さらなる誘客・集客及びP R の強化などが課題である。

## （4）実物資料及び写真資料の貸出

前稿でも触れたように、平成4（1992）年に重文・火焰型土器No.1が「日本の古代展」（アメリカ ワシントンD.C.、アーサー・サックラー美術館）へ出品された。その後、平成10（1998）年には重文・火焰型土器No.1が「縄文展」（フランス パリ、日本文化会館）に、平

成13（2001）年には国宝・火焔型土器No.1が「古代日本の聖なる美術展」（イギリス ロンドン、大英博物館）に出品された。これら資料貸出は、博物館の重要な機能の一つである。平成26（2014）年度から令和4（2022）年度までの実物資料の貸出は別表のとおりである（表10～表12）。また、同期間の写真資料の貸出は別表のとおりである（表13～表15）。

## 5. 博物館実習・職場体験について

博物館法の第1章第2条では、博物館の定義として、「博物館は歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集、保管、展示して、教育的配慮の下に公衆の利用に供すること」とある。博物館を教育機関とする所以はここにあり、この教育的配慮が現在の博物館事業の根底にある。教育機関としてのあり方とは別に、博物館法において博物館は研究機関であると規定している。博物館法の第3条第1項には、その四に博物館の事業として「博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと」を掲げ、博物館の調査研究の重要性を述べている。この専門的な調査研究の担い手は学芸員である。学芸員については、博物館法第4条第3項に、博物館の専門的職員としての学芸員の位置付けが規定され、同第4項には「学芸員は、資料の収集、保管、展示及び調査研究をはじめ専門的事項をつかさどる」として、博物館の専門的な調査研究が主として学芸員に委ねられていることが明記されている。

十日町市博物館では、旧博物館はもとより、新博物館においても、博物館実習生の受入れを行っている（表16）。以前は大学3年生でも受入れ可としていたが、平成15年頃からは博物館学概論を履修済みの大学4年生というハードルを設けている。5名定員で、十日町市及びその周辺出身の大学生を優先的に受け入れ、担当学芸員を中心に、学芸員が手分けをして6日間の実習を行っている。学芸員資格は、大学において設置された学芸員資格課程の単位を修得すれば、当該科目の国家試験が免除される。また、現状では学芸員資格を有していても学芸員の職に就ける者は極めて少ない。一方で、資格社会といわれるなか、何らかの資格を持ちたいとその取得に腐心する学生も少なくない。国家試験の導入とともに、インターン制度など少なくとも数ヶ月の研修を課して、学芸員としての資質・適性を判断する機会を与えるなどの厳格で抜本的な措置を講ずるべきとの声も多く聞かれる。6日間の実習で、即戦力となる学芸員を育てるのは

まず無理であることは十分に認識しているが、地域博物館の一つの使命として人材育成、後継者育成の観点から、今後も継続的に取り組んでいく必要があると考えている。なお、中学生、高校生の職場体験については、表16備考欄のとおりである。「博物館の理解者を増やす」ことにつながっているか、検証が必要であることは言うまでもない。

## 6. 史跡の保存と活用—火焔の都整備事業—

### （1）事業概要

火焔の都整備事業は、平成11（1999）年に笹山遺跡出土品が新潟県初の国宝に指定されたことを機に、出土地である笹山遺跡を中心とした地域を「火焔の都」として、その保護及び交流・体験の場の創出による活用を図ろうとする「火焔の都計画」が提案されたことに端を発している。平成14（2002）年には、その具体的実現を目指し「国宝館・火焔の都整備事業基本計画」が立案されるが、財政事情等から具体的な進捗をみることなく経過していた。市町村合併後の平成19（2007）年度より事業名を「国宝館・火焔の都整備事業」から「火焔の都整備事業」に改め、さらに平成20（2008）年度からは、国宝が新市住民の共有財産であることに立脚し、新市としての一体感を醸成するため、本事業は合併特例債適用事業として取り組むことになった。合併特例債適用事業として取り組む際の基本理念及び目的は、前述の「国宝館・火焔の都整備事業基本計画」を踏襲するものである。国宝館については、当面、諸条件が整うまでも凍結するものとし、事業の進捗に当たっては、主に中条地区振興会を窓口に地元住民との協働作業を基本的なスタンスとし、事業をすすめてきた。以下に、平成27年度までの年度ごとの主な事業を列記する（十日町市教育委員会文化財課編2017）。

#### ①平成20年度（計5,629,050円）

- ・ 笹山遺跡ガイダンス施設給排水衛生設備等改修工事 3,739,050円（有）技工住設／事業計画区域用地測量業務委託 1,890,000円（株）十日町測量 ※測量範囲 7,200m<sup>2</sup>

#### ②平成21年度（計17,701,757円）

- ・ 笹山遺跡広場整備第1次工事 1,281,000円（有）福島土木／笹山遺跡広場芝張工事 1,292,550円（株）恒樹園新潟／笹山遺跡広場整備第2次工事

1,186,500円（NPO法人 笹山縄文の里）／笹山遺跡広場芝張第2次工事 409,000円（NPO法人 笹山縄文の里）／笹山縄文館における展示物の作成及び設計委託 415,800円（NPO法人 笹山縄文の里）／笹山遺跡広場堅穴式住居実施設計委託 315,000円（NPO法人 笹山縄文の里）／事業計画区域用地測量業務委託 1,407,000円（株）十日町測量 ※測量範囲4,100m<sup>2</sup>）／事業計画用地取得 9,573,661円（H20 繰越分 4,909.85m<sup>2</sup>、H21分 1,275.64m<sup>2</sup>）／補償 51,996円（物件移転及び立木売買）／笹山遺跡サイン修繕工事 1,769,250円（田順アート・株谷内製材※合併特例債適用外）

#### ③平成22年度（計 5,596,500円）

・ 笹山遺跡広場堅穴式住居設置委託 3,454,500円（NPO法人 笹山縄文の里）／堅穴式住居屋根被覆シート及び入口扉作製委託 252,000円（NPO法人 笹山縄文の里）／事業計画区域用地測量業務委託 1,890,000円（株）十日町測量 ※測量範囲5,500m<sup>2</sup>）

#### ④平成23年度（計 10,286,850円）

・ 笹山遺跡広場堅穴式住居実施設計委託 294,000円（NPO法人 笹山縄文の里）／笹山遺跡広場整備（堅穴式住居盛土）工事 276,150円（NPO法人 笹山縄文の里）／笹山遺跡広場堅穴式住居設置委託 4,466,700円（NPO法人 笹山縄文の里）／笹山縄文館改修工事 1,260,000円（有技工住設）／笹山縄文館外壁改修工事 3,496,500円（株）谷内製材）／笹山縄文館外壁設計・改修委託 493,500円（NPO法人 笹山縄文の里）

#### ⑤平成24年度（計 14,683,113円）

・ 笹山給排水設備移転改修工事設計委託 484,050円（SOメンテナンス）／笹山給排水設備移転改修工事 7,518,000円（株）拓越）／笹山縄文館電灯引込口変更工事 327,600円（株）後藤電気）／笹山縄文館改修工事 656,040円（南雲木工所）／事業計画用地取得 5,001,860円（H23 繰越分 3,144.87m<sup>2</sup>）／補償 695,563円（H23 繰越分 物件移転及び立木売買）

#### ⑥平成25年度

・ 事業計画用地取得 1,549,329円（H24 繰越分 911.37m<sup>2</sup>）

#### ⑦平成26年度

・ 事業計画用地取得 1,596,912円（H25 繰越分 939.36m<sup>2</sup>）／補償 324,756円（H25 繰越分 立木移転補償）

#### ⑧平成27年度

・ 事業計画用地取得 970,479円（H26 繰越分 570.87m<sup>2</sup>）

#### （2）現状と課題

平成14（2002）年に策定された「国宝館・火の都整備事業基本計画」において、基本計画の目的・理念について「笹山遺跡とその出土品は、貴重な歴史的遺産であり、それらを保存し、人々に広く公開し活用をはからなければならない。その拠点として国宝館を中心とする「火の都」を整備し、地域芸術文化の振興と交流人口の増大を図り、縄文芸術の里・十日町をめざす」としている。また、基本方針については「現存している縄文時代以来の歴史的景観を保全し、さらに長期計画において段階的に縄文植生の育成を図り、自然生態系との調和を基本とした計画とする。具体的な整備基本方針は、①国宝出土地である笹山遺跡の保存とスポーツ施設との調和ある整備、②各種調査成果に基づき、遺跡の特性を活かした環境整備と施設整備、③学校教育、社会教育と連携した複合的な学習体験施設の整備」とある。

これまでの経緯と主な事業については上記のとおりである。平成27（2015）年度以降においても事業計画用地取得に向けた取組みを中心に行っている。代替地などの問題もあり、計画地の土地買収が思うように進捗していないが、地権者及び関係者の同意を得て、早期に買収が完了できるよう引き続き努力していかなければならない。また、平成23（2011）年4月からは、「市民スポーツハウス」を遺跡のガイダンス施設及び地元振興会、NPO法人等の活動拠点としての機能を持たせた「笹山縄文館」へと転用する条例を施行し、現在に至っている。

一方、平成26（2014）年12月市議会の一般質問において、「笹山遺跡の市史跡指定地の取得は平成25年度末で64.1%を取得した。新博物館構想もあり、笹山遺跡に国宝館を建設することは経費的、人的な面から難しい。新博物館で国宝の展示と管理を行い、笹山遺跡は、見る、感じる、触れるなど出土遺跡ならではの活動を展開していきたい」という趣旨の答弁が行われ、国宝

館凍結の状況に変化はない。火縄の都整備事業はもとより、国宝出土地・笹山遺跡学術調査事業、縄文体験プログラム事業など、これまで進めてきた事業あるいは現在進行中の事業を総括・検証する必要があり、笹山縄文館が築40年を迎えてることや基本計画策定時に比べ社会情勢や財政状況等がかなり変化していることをふまえ、新たな基本計画の策定が急務である。

## おわりに

当時、悠久山にあった長岡市立科学博物館で火縄土器を初めて見たのは、約50年前のことであった。強い衝撃を受け、その後、中学校の図書室で『先史時代と長岡の遺跡』と出会い、考古学に興味を持つ契機となった。大学院終了後、縁あって十日町市博物館に就職し、笹山遺跡をはじめ幅広い遺跡、野首遺跡など火縄型土器出土遺跡の発掘調査、整理調査、普及啓発に携わる機会を得た。笹山遺跡出土品の重要文化財指定や国宝指定に関わることができたのも幸いなことであった。私事ではあるが令和5(2023)年3月末をもって定年退職を迎える。しかし、4月以降も再任用職員として、微力ながら博物館活動の推進に努めていきたい。

紙数に限りがあるため、調査研究活動における文化財課と博物館の関係性、文化財課の文化財保護と埋蔵文化財の関係性については、稿を改めて検討の機会をもちたい。また、引用・参考文献の多くを割愛した。お許しいただきたい。(2023年3月10日脱稿)

## 謝辞

これまでの間に、阿部恭平、阿部敏、今井哲哉、小熊博史、小野昭、貝瀬香、笠井洋祐、川村知行、木村英祐、久保禎子、小林隆幸、小林達雄、小林徳、佐々木榮一、佐藤信之、佐藤雅一、眞田岳彦、菅沼亘、竹内俊道、高木公輔、高橋由美子、立木宏明、角田由美子、中村由克、新田康則、橋本博文、原田昌幸、林真子、平山育夫、廣野耕造、星野元一、松村実、宮尾亨、山田正毅の各氏をはじめ、多くの方々よりご指導・ご教示をいただいた。また、故人となられたが、甘粕健、石澤寅義、今福利恵、大島伊一、岡田稔、上村政基、小島俊彰、小林宏行、佐野良吉、島田靖久、須藤重夫、滝沢秀一、田村達夫、土肥孝、富澤孝之、中澤幸男、波形卯二、樋熊清治、廣田永二、藤本強、丸山克己の各氏から種々ご教示をいただいた。文末ではあるが記して厚くお礼申し上げる。

## 引用・参考文献

佐野良吉 1982『隨想妻有郷—十日町地方の歴史と民俗—』国書刊行会  
石原正敏 編 1988『ガイドブック 十日町市の遺跡』十日町市博物館

- 佐野良吉 1990『妻有郷の歴史散歩』国書刊行会  
阿部恭平・竹内俊道 編 1994『図説 越後アンギン』十日町市博物館  
菅沼亘 編 1996『縄文の美—火縄土器の系譜—』十日町市博物館  
石原正敏・竹内俊道 編 1996『火縄土器研究の新視点』十日町市博物館  
石原正敏・竹内俊道 編 2000『火縄型土器をめぐる諸問題—笹山遺跡の謎に迫る—』十日町市博物館  
(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団 2000『新潟の遺跡 先人からのメッセージ』新潟日報事業社  
竹内俊道 2002『地域に根ざした博物館活動を目指して』『博物館研究』第37巻第6号 日本博物館協会  
竹内俊道・林真子 編 2002『雪文化三館提携10周年記念企画 北越雪譜と魚沼の風土』十日町市博物館友の会  
美濃加茂市民ミュージアム 2004『博学連携フォーラム～120cmから見た博物館～』<レジュメ集>  
佐藤雅一 2007『地域造りとしての文化財の保護と活用』『魚沼新報』<ダイジェスト版>  
橋本博文・佐藤雅一・渡邊朋和・石原正敏 2007『いま、遺跡がおもしろい! 遺跡に集う元気な仲間たち～遺跡の活用を考える～』文化財保存新潟県協議会第9回大会<レジュメ集>  
高木公輔・藤原敏秀・石原正敏・佐藤雅一 2007『文化財の保護と活用』魚沼地域文化財保護行政懇談会<レジュメ集>  
山本暉久・石原正敏・会田進・長沢宏昌 2008『世界の文化遺産、中部日本縄文遺跡の魅力を語る』縄文王国山梨実行委員会<レジュメ集>  
新潟県立歴史博物館 2009『火縄土器の国 新潟』新潟日報事業社  
安高啓明 2014『歴史の中のミュージアム—驚異の部屋から大学博物館まで—』昭和堂  
にいがた文化の記憶館 2015『みんなで伝えよう にいがた文化の記憶』  
石原正敏 2010『豪雪地帯に生まれた文化—火縄土器の世界—』『知つておきたい新潟県の歴史』新潟日報事業社  
十日町市博物館 編 2015『十日町市博物館 年報 第1号』  
十日町市教育委員会文化財課 編 2015『文化財課年報 16』  
石原正敏 2015『火縄型土器のクニ』から—笹山遺跡の土器、土製品や石器類』『東北学05』はるの書房  
十日町市博物館 編 2016『十日町市博物館 年報 第2号』  
十日町市博物館 編 2017『十日町市博物館 年報 第3号』  
石原正敏 2018『国宝「火縄型土器」の世界 笹山遺跡』新泉社  
十日町市教育委員会文化財課 2018『十日町市歴史文化基本構想』新潟県十日町市  
十日町市博物館 編 2018『十日町市博物館 年報 第4号』  
十日町市博物館 編 2019『十日町市博物館 年報 第5号』  
十日町市博物館 編 2020a『国宝 笹山遺跡出土品のすべて (改訂版)』  
十日町市博物館 編 2020b『十日町市博物館 要覧』  
十日町市博物館 編 2020c『十日町市博物館 年報 第6号』  
岩城卓二・高木博志 編 2020『博物館と文化財の危機』人文書院  
十日町市博物館 編 2021a『常設展示案内ガイド』  
十日町市博物館 編 2021b『十日町市博物館 年報 第7号』  
新潟県博物館協議会 2021『新潟県博物館協議会加盟館一覧』  
十日町市博物館 編 2022『十日町市博物館 年報 第8号』  
石原正敏 2022『ミュージアム・マネジメントの実践 (1) —新十日町市博物館の取り組み—』『十日町市博物館研究紀要』1

表1 資料の収集（平成26年度～令和3年度）

年度	件数	資料名
平成26年度	33	ショイダル、餅のし板ほか、弓張り、ガリ版、オヒキガネほか、チョウナほか、雪まつりパッケージたばこ、中国紙幣ほか、おさなみ織の着物ほか、膳椀ほか、妙高山関山神社の火祭りのワラジ、着物の端切れ、バケツ、吸物椀ほか、蓄音機ほか、紋付の着物ほか、信濃川で使用したイカリほか、古書籍・千人針ほか、越後縮のミズトオシほか、写真データほか、帝国日本里程細図、一斗マスほか、ネクタイ、旧滝文資料、金子借用証文などの古文書、刀ほか、羽織ほか、旧睦織物で使用していた首里織帯の紋栓、中條平作家文書（仙田）、藕糸織、カケヤほか など
平成27年度	34	化粧まわしほか、タヌキ剥製ほか、軍隊手帳ほか、棒秤、香炉、漆塗り椀ほか、更新供養道具ほか、天秤ばかりほか、雪下駄、従軍記章之證ほか、古書籍ほか、昔の洗濯機ほか、舟箱形シャトルほか、土地名寄帳ほか、『越能山都登』復刻版ほか、コモヅチほか、ダイヤル式電話機ほか、昔の着物ほか、電気コタツほか、旧中里村関係古文書、昔の教科書ほか、掛軸「墨竹図」、浪曲のレコード、古文書・巻物、大賀一郎博士関連資料、蓄音機ほか、農家組合関係文書 など
平成28年度	29	農具ほか、昔の紙幣、昔のカメラ、足踏みミシンほか、ユキノコギリ、和紙の鯉のぼり、出征旗、ケシツボほか、着物、桶屋道具、頼母子講資料、昔の電気コタツ、日本刀ほか、箪笥、スクリーン型枠、掛軸、スゲボシ、尋常小学校唱歌テープ、旗、ガス炊飯器、シュロボンほか、屏風、古文書、明石ちぢみサンプル帳、茅葺民家写真、写真アルバムほか など
平成29年度	21	イットマスほか、棒バカリ、赤岩小学校歌資料、マジョリカお召ほか、昔の新聞、梵字Tシャツ、岩石・鉱物標本、ジザイカギほか、屏風、硯ほか、巾治家資料、モンペほか、雪グタほか、古文書・古典籍、書籍、ザグリ機ほか、版木ほか、駕籠ほか など
平成30年度	18	マジョリカお召ほか、ちゃぶ台ほか、庚申講道具、黒絵羽織ほか、古文書、倉俣小学校歌楽譜、来箱ほか、川西郷土読本ほか、火焰型土器模造品、古書籍ほか、ヤバサミ、昔の写真、生糸、掛軸、携帯白黒テレビ、紡織具 など
平成31年・令和元年度	11	着物（しづり紺地長着、銘仙ほか）、庚申講道具、昔のステレオ、六角行燈、古文書 など
令和2年度	36	スッポン、コスキ、ロウソクタテ、ゼンマイ採り用着物、道仕切りの木札、原町五旒旗、松代地域の民話音声資料（カセットテープ）などの民俗・民具資料、黒絵羽織、紅型・小紋等の型染め資料、マジョリカお召・見本帳などの着物資料、雪景色・文化財・市内風景・祭りなどのボジフィルム及びプリントなど写真資料、飯山線開設関係文書・古文書・古典籍などの歴史資料、十日町小唄水墨画（中山晋平書・水谷八重子画）及び掛軸類など美術資料、十日町森林総合研究所観測記録及び中里養魚センター観測記録などの記録資料 など
令和3年度	116	民具資料（文政十三年間棟札、川舟の櫂、イカリ、シュロボシ、スカリ、スッペ、高下駄、炭火アイロン、蓄音機、SP盤レコード、コリントゲームなど）、十日町産地の着物資料（十日町明石ちぢみ、マジョリカお召、黒絵羽織、縫取縮緬など）、芸能関係資料（上川手歌舞伎上演用具、中尾○面神楽上演用具）、美術資料（永井白淵筆・十日町小唄歌詞掛軸、中山龍次筆・諏訪大神掛軸、明屋有照画賛・太子講掛軸）、古文書等歴史資料（安養寺・古澤家資料、上野・星名家資料、上郷池・庄屋家資料、清水村・庄屋家資料など）、昔の写真及び写真画像CD（十日町雪まつりなど）、十日町森林研究所研究員資料（記録写真・日記・書簡等一括） など

表2 資料の整理・保管（平成31年・令和元年度～令和3年度）

年度	資料群名	資料の内容と整理方法
平成31年・令和元年度	松沢家、小川家（ともに十日町地域）、桑原家、山本家（ともに中里地域）ほか諸家資料（計3,667点）	江戸時代からの古文書、絵図、古典籍等の目録化のための資料カードを記入し、データベース入力実施。資料は中性紙保存箱に収納し防虫剤を入れて保管。
	山内家写真資料	市民ボランティアと協働して旧・山内写真館所蔵の明示から平成にかけての写真資料（約48,000点）に関する内容情報を調査・収集・整理し、第10期整理期間（R1.5.9～R2.2.2）において約6,000点の写真資料カードを記入。第11回山内写真館資料写真展を企画・展示・運営。
令和2年度	桑原家（塩ノ又）、柳家（麻畑）、諸家資料ほか11家文書（計1,147点）	近世から近代の古文書・絵図・古典籍等の目録化のための資料カードを記入し、データベース入力実施。資料は中性紙保存箱に収納し防虫剤を入れて保管。
	山内家写真資料	市民ボランティアと協働して旧・山内写真館所蔵の明示から平成にかけての写真資料（約48,000点）に関する内容情報を調査・収集・整理し、第11期整理期間（R2.7.9～R3.3.25）において約3,000点の写真資料カードを記入。第12回山内写真館資料写真展を企画・展示・運営。
令和3年度	安養寺・古澤家、川治・松沢家未整理分、新光寺・佐藤家未整理分ほか諸家資料（約1,800点）	近世から近代の古文書・絵図・古典籍等の目録化のための資料カードを記入し、データベース入力実施。資料は中性紙保存箱に収納し防虫剤を入れて保管。
	山内家写真資料	市民ボランティアと協働して旧・山内写真館所蔵の明示から平成にかけての写真資料（約48,000点）に関する内容情報を調査・収集・整理し、第12期整理期間（R3.6.24～R4.3.24）において約1,000点の写真資料カードを記入。第13回山内写真館資料写真展を企画・展示・運営。
	古文書・着物資料の保管	防虫剤・除湿剤を投入し保管。

表3 令和2年度博物館教育普及・展示事業一覧

事業	内 容	日時(期間)	会 場	参加者数
夏季企画展	新館オープン記念「国宝・笛山遺跡出土深鉢形土器のすべて」(日本博参画事業)	6/1(月)～8/23(日)	博物館 企画展示室	9,645
秋季特別展	新館オープン記念「縄文の遺産－雪降る縄文と星降る縄文－」	9/26(土)～11/8(日)	博物館 企画展示室	6,097
	記念講演会「日本美術史における縄文的なもの」 講師：山下裕二氏(明治学院大学文学部教授)	10/17(土)	情報館 視聴覚ホール	57
特設展示	「昔の道具」	12/19(土)～1/24(日)	博物館 企画展示室	
冬季企画展	「マジョリカお召と黒絵羽織」	2/13(土)～3/28(日)	博物館 企画展示室	2,973
博物館講座	「縄文を学ぶ」	新型コロナウイルス感染症拡大のため中止		
	①「縄文造形を楽しむ－縄文時代の社会交流－」 講師：井出浩正氏(東京国立博物館 教育講座室長)			
	②「土器から縄文食を探る」 講師：宮内信雄氏(東京大学総合研究博物館 学術専門職員)			
	③「土器の出現と縄文時代のはじまり」 講師：堤 隆氏(明治大学黒耀石研究センター 客員研究員)			
古文書入門講座	講師：林 悅郎氏(博物館友の会・古文書研究グループ)	6～3月(全17回)	博物館 講堂	10 (受講生)
子ども博物館	①「鶏頭冠突起作り」	8/1(土)	博物館 体験学習室	14 (全2回)
	②「縄文クッキーを作ってみよう」	12/12(土)	博物館 体験学習室	

表4 令和2年度歳出予算

歳出予算

(単位：千円、千円未満切り上げ)

節		当初予算額	補正額(流用含む)	補正後予算額	決算額
1. 報酬	会計年度任用職員報酬、博物館協議会委員報酬	6,559	80	6,639	6,538
3. 職員手当等	会計年度任用職員手当	257	0	259	258
7. 報償費	講師謝礼・指導者謝礼	530	△150	380	0
8. 旅費	費用弁償・普通旅費	680	△99	581	241
10. 需用費	消耗品費・燃料費・食糧費・印刷製本費・光熱水費・修繕料	15,857	920	18,515	15,273
11. 役務費	通信運搬費・手数料・保険料・広告料	3,030	80	3,365	2,780
12. 委託料	館維持管理委託・収蔵資料燻蒸業務委託ほか	13,809	8,362	19,347	17,092
13. 使用料及び賃借料	テレビ受信料・コピー機リース・収蔵品管理システム利用・自動車レンタル料	733	0	733	660
14. 工事請負費	施設改修工事	0	303	578	550
17. 備品購入費		0		297	268
18. 負担金ほか	日本博物館協会ほか負担金	46	0	46	46
		41,501	9,496	50,997	44,010

事業別歳出予算内訳

(単位：千円、千円未満切り上げ)

事 業 名	当初予算額	補正額(流用含む)	補正後予算額	決算額
一般経費	5,141	131	5,272	5,125
旧博物館施設維持管理経費	2,949	0	2,949	2,613
博物館施設維持管理経費(除排雪経費含む)	18,972	1,036	20,008	19,255
教育普及・展示事業	5,039	△467	4,572	4,471
博物館開館事業	4,571	△1,445	3,126	184
資料収集・調査研究・資料保存対策事業	3,996	△194	3,802	3,587
縄文文化発信事業	833	0	833	512
文化観光拠点施設キャッシュレス化事業(文観計画・補助)	0	2,840	2,840	1,778
無形文化資源データ(映像等)化事業(文観計画・補助)	0	6,996	6,996	5,988
十日町市博物館所蔵文化遺産体験事業(文観計画・補助)	0	599	599	500
	41,501	9,496	50,997	44,010

表5 令和3年度博物館教育普及・展示事業一覧

事業	内 容	日時（期間）	会 場	参加者数
夏季特別展	新館オープン1周年記念「形をうつすー文化財資料の新たな活用ー」（日本博参画事業）	6/1(月)～7/4(日)	博物館 企画展示室	4,377
夏季企画展	「器の移り変わりー縄文から現代までー」	7/27(火)～8/29(日)	博物館 企画展示室	2,562
秋季特別展	新館オープン1周年記念「岡本太郎が見て、撮った縄文」 記念イベント「岡本太郎と縄文を語る」 講師：石井 匠氏（国立歴史民俗博物館研究員） 山下裕二氏（明治学院大学文学部教授）	10/2(土)～11/14(日) 10/17(土)	博物館 企画展示室 情報館 視聴覚ホール	4,804 60
特設展示	「昔の道具」	12/19(土)～1/24(日)	博物館 企画展示室	
冬季企画展	「明石ちぢみと十日町小唄」	2/13(土)～3/28(日)	博物館 企画展示室	2,973
博物館講座	「縄文を学ぶ」 ①「縄文造形を楽しむー縄文時代の社会交流ー」 講師：井出浩正氏（東京国立博物館 教育講座室長）	8/7(土)	博物館 講堂	61 (全3回)
	②「土器から縄文食を探る」 講師：宮内信雄氏（東京大学総合研究博物館 学術専門職員）	8/21(土)	博物館 講堂	
	③「土器の出現と縄文時代のはじまり」 講師：堤 隆氏（明治大学黒耀石研究センター 客員研究員）	8/28(土)	博物館 講堂	
古文書入門講座	講師：林 悅郎氏（博物館友の会・古文書研究グループ）	6～3月（全17回）	博物館 講堂	12 (受講生)
子ども博物館	①「鶏頭冠突起作り」	8/22(日)	博物館 体験学習室	8 (全2回)
	②「縄文クッキーを作ってみよう」	12/18(土)	博物館 体験学習室	

表6 令和3年度歳出予算

歳出予算						(単位：千円、千円未満切り上げ)
節		当初予算額	補正額（流用含む）	補正後予算額	決算額	
1. 報酬	会計年度任用職員報酬、博物館協議会委員報酬	6,763	0	6,763	6,614	
3. 職員手当等	会計年度任用職員手当	415	0	415	357	
7. 報償費	講師謝礼・指導者謝礼	629	0	629	431	
8. 旅費	費用弁償・普通旅費	558	64	622	339	
10. 需用費	消耗品費・燃料費・食糧費・印刷製本費・光熱水費・修繕料	23,712	749	24,461	22,602	
11. 役務費	通信運搬費・手数料・保険料・広告料	4,433	0	4,433	3,934	
12. 委託料	館維持管理委託・収蔵資料燻蒸業務委託ほか	24,420	△749	23,671	22,038	
13. 使用料	テレビ受信料・機器・車両リース・収蔵品管理システム利用料	1,166	0	1,166	662	
14. 工事請負費	旧博物館電源低圧化工事	1,770	0	1,770	1,762	
18. 負担金ほか	日本博物館協会ほか負担金	46	0	46	46	
26. 公課費	重量税	33	0	33	33	
		63,945	64	64,009	58,814	

事業別歳出予算内訳

事 業 名	当初予算額	補正額（流用含む）	補正後予算額	決算額
一般経費	245	0	245	158
旧博物館施設維持管理経費	3,615	△230	3,385	1,586
博物館施設維持管理経費（除排雪経費、コロナ対策経費含む）	34,917	294	35,211	32,664
教育普及・展示事業（特別展示会事業含む）	8,244	0	8,244	7,614
資料収集・調査研究・資料保存対策事業	2,954	0	2,954	2,863
縄文文化発信事業	468	0	468	276
文化観光拠点施設キャッシュレス化事業（文観計画・補助）	13,502	0	13,502	11,894
	41,501	64	64,009	58,814

表7 令和4年度博物館教育普及・展示事業一覧

事業	内容	日時(期間)	会場	参加者数
春季企画展	「市民からの贈り物」	4/29(月)～6/5(日)	博物館 企画展示室	3,771
夏季企画展①	「里山の石仏－松之山の祈りと信仰－」	7/23(土)～8/28(日)	博物館 企画展示室	3,630
夏季企画展②	雪文化三館提携30周年記念特別展「モノと芸術とヒトが織りなす雪文化」	9/6(火)～9/25(日)	博物館 エントラ ンスホール	
秋季特別展	本ノ木・田沢遺跡群国史跡指定3周年記念「縄文時代の始まりを探る」	10/1(土)～11/13(日)	博物館 企画展示室	4,593
	記念講演会「信濃川流域の縄文時代草創期遺跡群」 講師：谷口康浩氏（國學院大學文学部 教授）	10/15(土)	情報館 視聴覚ホール	45
特設展示	「昔の道具」	1/4(火)～1/29(日)	博物館 企画展示室	
冬季企画展	「雪国の食べものがたり」	2/18(土)～3/26(日)	博物館 企画展示室	●
博物館講座	「究極の雪国を学ぶ」			
	①「食から見る雪国のもよし」 講師：大楽和正氏（新潟県立歴史博物館 主任研究員）	6/4(土)	博物館 講堂	46 (全3回)
	②「防寒着としての角巣」 講師：岩野笙子氏（新潟県民俗学会 理事）	6/18(土)	博物館 講堂	
	③「雪国の建築」 講師：平山育男氏（長岡造形大学 教授）	7/2(土)	博物館 講堂	
古文書入門講座	講師：林 悅郎氏（博物館友の会・古文書研究グループ）	6～11月（全12回）	博物館 講堂	延109 (受講生)
子ども博物館	①「プラ板キーホルダー作り」	8/20(土)	博物館 体験学習室	14 (全2回)
	②「ミニチュア土器づくり」	12/17(土)	博物館 体験学習室	

表8 令和4年度歳出予算

歳出予算

(単位：千円、千円未満切り上げ)

節		当初予算額	補正額(流用含む)	補正後予算額	決算額
1. 報酬	会計年度任用職員報酬、博物館協議会委員報酬	6,826	0	6,826	
3. 職員手当等	会計年度任用職員手当	812	0	812	
7. 報償費	講師謝礼・指導者謝礼	371	0	371	
8. 旅費	費用弁償・普通旅費	432	44	484	
10. 需用費	消耗品費・燃料費・食糧費・印刷製本費・光熱水費・修繕料	23,938	2,353	26,291	
11. 役務費	通信運搬費・手数料・保険料・広告料	4,406	△14	4,392	
12. 委託料	館維持管理委託・収蔵資料燻蒸業務委託ほか	17,018	0	17,018	
13. 使用料及び賃借料	テレビ受信料・機器・車両リース・収蔵品管理システム利用料	663	146	809	
18. 負担金ほか	日本博物館協会ほか負担金	46	0	46	
		54,512	2,529	57,041	0

事業別歳出予算内訳

(単位：千円、千円未満切り上げ)

事業名	当初予算額	補正額(流用含む)	補正後予算額	決算額
一般経費	216	0	216	
旧博物館施設維持管理経費	1,218	228	1,446	
博物館施設維持管理経費(除排雪経費、コロナ対策経費含む)	35,865	2,309	38,174	
教育普及・展示事業(特別展示会事業含む)	5,809	0	5,809	
資料収集・調査研究・資料保存対策事業	2,474	0	2,474	
縄文文化発信事業	330	△8	322	
文化観光拠点施設キャッシュレス化事業(文観計画・補助)	8,600	0	8,600	
	54,512	2,529	57,041	0

表9 旧博物館と新博物館の入館者数の比較

年 度	大 人		小 人		合 計 ( ) 内団体数	備 考
	個 人	団 体 (数)	個 人	団 体 (数)		
昭和54 (1979)						
昭和55 (1980)						
昭和56 (1981)	7,401	8,215 (235)	3,387	1,997 (43)	21,000 (278)	
昭和57 (1982)	10,309	6,108 (226)	3,875	2,841 (56)	23,133 (282)	
昭和58 (1983)	10,291	5,651 (205)	2,854	2,478 (52)	21,274 (257)	
昭和59 (1984)	11,396	7,574 (205)	2,383	2,273 (34)	23,626 (239)	
昭和60 (1985)	7,266	5,559 (179)	3,120	1,370 (29)	17,275 (208)	
昭和61 (1986)	8,787	5,700 (205)	6,755	3,551 (57)	24,793 (262)	
昭和62 (1987)	7,434	6,637 (219)	3,904	2,030 (40)	20,005 (259)	
昭和63 (1988)	10,274	4,718 (152)	3,207	1,869 (35)	20,068 (187)	
平成元 (1989)	11,442	3,850 (123)	3,538	1,972 (41)	20,802 (164)	
平成2 (1990)	10,166	3,075 (126)	2,191	1,116 (22)	16,548 (148)	
平成3 (1991)	9,899	5,837 (189)	3,297	1,819 (38)	20,852 (227)	
平成4 (1992)	10,460	4,908 (126)	3,099	2,138 (46)	20,605 (172)	
平成5 (1993)	10,074	4,958 (134)	3,268	1,943 (45)	20,243 (179)	
平成6 (1994)	9,678	2,889 (94)	2,956	1,623 (41)	17,146 (135)	
平成7 (1995)	11,979	3,819 (115)	2,365	1,879 (53)	20,042 (168)	
平成8 (1996)	11,255	4,592 (124)	2,011	1,598 (40)	19,456 (164)	
平成9 (1997)	12,890	4,467 (130)	1,641	2,258 (62)	21,256 (192)	
平成10 (1998)	13,718	2,985 (85)	1,803	1,350 (33)	19,856 (118)	
平成11 (1999)	21,337	5,540 (159)	2,811	3,394 (65)	33,082 (224)	
平成12 (2000)	15,252	5,150 (134)	1,886	2,072 (49)	24,360 (183)	
平成13 (2001)	12,162	3,365 (91)	1,561	1,903 (42)	18,991 (133)	
平成14 (2002)	11,368	2,230 (60)	1,720	1,429 (32)	16,747 (92)	
平成15 (2003)	11,313	2,981 (81)	1,624	1,495 (27)	17,413 (108)	
平成16 (2004)	8,568	2,715 (77)	1,470	1,075 (31)	13,828 (108)	
平成17 (2005)	10,829	1,458 (46)	1,398	2,431 (54)	16,116 (100)	
平成18 (2006)	14,322	2,771 (76)	1,776	2,627 (69)	21,496 (145)	
平成19 (2007)	11,663	2,384 (78)	1,356	3,294 (83)	18,697 (161)	
平成20 (2008)	10,617	2,261 (67)	1,519	2,668 (55)	17,065 (122)	
平成21 (2009)	12,766	1,969 (47)	1,840	2,141 (49)	18,716 (96)	
平成22 (2010)	10,778	1,431 (43)	1,964	1,661 (41)	15,834 (84)	
平成23 (2011)	9,511	1,169 (33)	1,542	1,508 (45)	13,730 (78)	
平成24 (2012)	15,493	1,138 (38)	2,001	1,630 (39)	20,262 (77)	
平成25 (2013)	11,241	806 (26)	1,250	1,461 (34)	14,758 (60)	
平成26 (2014)	12,518	768 (30)	1,063	1,510 (38)	15,859 (68)	
平成27 (2015)	15,552	1,114 (36)	1,636	1,344 (27)	19,646 (63)	
平成28 (2016)	12,636	1,232 (37)	1,164	1,405 (32)	16,437 (69)	
平成29 (2017)	12,033	962 (32)	1,251	1,126 (26)	15,372 (58)	
平成30 (2018)	13,198	780 (27)	1,374	1,045 (32)	16,397 (59)	
令和元 (2019)	9,537	1,042 (32)	1,195	566 (8)	12,340 (40)	
総 計	447,373	134,808 (4,122)	89,055	73,890 (1,645)	745,126 (5,767)	
年 度	一 般		中学生以下	合 計	備 考	
	有 料	免 除				
令和2 (2020)	17,170	3,982	4,784	25,936		
令和3 (2021)	14,957	4,783	4,142	23,882		
令和4 (2022)	15,114	7,818	3,387	26,319	令和5年3月12日現在	
総 計	47,241	16,583	12,313	76,137		

表10 実物資料の貸出（平成26年度～平成28年度）

年度	貸出先	資料名（点数）	目的（展覧会名など）
平成26年度	文化庁	野首遺跡火焔型・王冠型土器 計4点	「発掘された日本列島2014」（国内5館巡回）
	滋賀県立安土城考古博物館	野首遺跡火焔型・王冠型土器 計2点	秋季特別展「造形衝動の一万年」
	長岡市馬高縄文館	中島・枯木遺跡深鉢形土器 計6点	夏季特別展「南三十稻場式土器を探る—多様な沈線文の広がり—」
	津南町農と縄文の体験実習館なじょもん	久保寺南遺跡出土品ほか 計61点	秋季特別展「魚沼地域の先史文化」
	北の縄文道民会議	国宝・笹山遺跡火焔型土器No.1 レプリカ1点	「赤れんが北の縄文世界展」
	十日町きものまつり・きものパレード部会	マジョリカお召・黒絵羽織ほか 計12点	十日町きものまつり
	十日町織物工業協同組合	明石ちぢみ 1点	明石縮研究会（東京呉服店会）
	下条地区公民館	旧三好村地籍図（情報館保管） 1点	公民館歴史教室
	魚沼市教育委員会生涯学習課	貝野村離縁状関係文書（情報館保管） 計3点	第6回生涯学習体験ひろば（魚沼市生涯学習推進協議会）
	南魚沼市教育委員会社会教育課	徳永重光家文書（情報館保管） 計3点	写真展「今成家写真と南魚沼の文化」（南魚沼市・新潟大学人文学部）
平成27年度	浅間縄文ミュージアム	幅上遺跡火焔型土器ほか19点／森上遺跡火焔型土器2点 計21点	春夏季企画展「縄文5000年前の世界」
	長岡市馬高縄文館	横割遺跡深鉢形土器3点・土偶2点 計5点	夏季企画展「北陸の土器と火炎土器I－新潟県の様相をさぐる－」
	茅野市尖石縄文考古館	野首遺跡火焔型・王冠型土器5点／国宝・笹山遺跡火焔型土器No.1 レプリカ1点 計6点	特別展「縄文土器造形の頂点 5000年後の競演」
	星と森の詩美術館	笹山遺跡火焔型・王冠型土器ほか7点／カウカ平A遺跡火焔型土器1点／宮ノ上A遺跡深鉢形土器1点 計9点	特別展「小さな星をさがして」
	津南町農と縄文の体験実習館なじょもん	伊達八幡館跡銅製仏具ほか22点／笹山遺跡・水沢館跡・南谷内館跡ほか陶磁器類36点 計58点	秋季特別展「魚沼地方の中世」
	山梨県立考古博物館	国宝・笹山遺跡火焔型・王冠型土器3点／野首遺跡火焔型・王冠型土器5点 計8点	秋季特別展「縄文の美－世界に誇るJOMON芸術－」
	九州国立博物館	国宝・笹山遺跡火焔型土器（No.6） 1点	開館10周年記念特別展「美の国 日本」
	和光市教育委員会	野首遺跡火焔型土器ほか3点／笹山遺跡火焔型・王冠型土器2点／梶花遺跡ヒスイ加工品1点 計6点	市制施行45周年記念特別展「出土遺物の交流と結」
	十日町きものまつり実行委員会	明石ちぢみ・マジョリカお召・紬絣・越後縮紋付ほか 計15点	十日町きものまつり「きもの文化体験ひろば」
	史跡古津八幡山・弥生の丘展示館	牛ヶ首遺跡土器ほか20点／城之古遺跡土製紡錘車ほか32点／柳木田遺跡管玉ほか28点 計80点	企画展「邪馬台国の時代3 古津八幡山の頃の信濃川右岸の世界」
平成28年度	長岡市馬高縄文館	野首遺跡火焔型・王冠型土器 計2点	夏季企画展「火炎土器展」
	津南町農と縄文の体験実習館なじょもん	荒屋遺跡採集品（寄託） 計24点	秋季企画展「氷河期を生きた狩猟・採集民の世界」
	愛知県陶磁美術館	国宝・笹山遺跡火焔型土器（No.2・5）2点／野首遺跡王冠型土器1点 計3点	特別企画展「人が大地と出会うとき」
	國學院大學博物館	国宝・笹山遺跡火焔型土器（No.6）・三角形土版・三角とう形土製品16点／笹山遺跡深鉢形土器1点／森上遺跡火焔型・王冠型土器2点／幅上遺跡王冠型土器1点／南雲遺跡大珠3点／ぼんのう遺跡石棒・三角とう形土製品2点／小坂遺跡三角形土版・三角とう形土製品11点／カウカ平遺跡土偶2点／大井久保遺跡土偶1点 計39点	特別展「ジョーモネスクジャパン2016火焔型土器のデザインと機能」
	新潟県立歴史博物館	アンギン関連資料（重文・寄託品を含む） 計41点	冬季企画展「すてきな布－アンギン研究100年－」
	北海道文化振興課 世界遺産推進室	国宝・笹山遺跡火焔型土器No.1 レプリカ1点	「縄文冬まつり－JOMON SNOW FESTIVAL－」

表11 実物資料の貸出（平成29年度～令和元年度）

年度	貸出先	資料名（点数）	目的（展覧会名など）
平成29年度	浅間縄文ミュージアム	幅上遺跡土器・焼成粘土塊16点／森上遺跡土器4点 計20点	企画展「縄文の技と美」
	長岡市馬高縄文館	大井久保遺跡土器2点／麻畠原B遺跡土器2点 計4点	夏季特別展「東北の土器と火炎土器I」
	津南町農と縄文の体験実習館なじょもん	中林・田沢・原水無・中田B・中田D・干溝・久保寺南・本ノ木遺跡資料 計151点	秋季特別展「本ノ木—調査・研究の歩みと60年目の視点—」
	長野県立歴史館	野首遺跡土器 4点	秋季企画展「進化する縄文土器」
	京都大学総合博物館	国宝・笹山遺跡火炎型土器（No.8）・三角形土版・三角とう形土製品16点／笹山遺跡深鉢形土器1点／野首遺跡土器7点／小坂遺跡土器1点／幅上遺跡土器2点／南雲遺跡大珠3点／ぽんのう遺跡石棒・三角とう形土製品2点／小坂遺跡三角形土版・三角とう形土製品11点／カウカ平遺跡土偶2点／大井久保遺跡土偶1点 計46点	特別展「火炎型土器と西の縄文 ジョーモネスクジヤパン2017」
	京都国立博物館	国宝・笹山遺跡火炎型土器2点（No.1・6）	特別展覧会「国宝」
	カッピヌードルミュージアム横浜	国宝・笹山遺跡火炎型土器No.1 レプリカ1点	土器づくり体験プロジェクト
	北海道文化振興課 世界遺産推進室	国宝・笹山遺跡火炎型土器No.1 レプリカ1点	「縄文冬まつり」
平成30年度	新潟県埋蔵文化財センター	野首遺跡土器42点、土製品17点、石器・石製品32点 計92点	春季企画展「火炎型土器—縄文の息吹—」
	東京国立博物館	国宝・笹山遺跡火炎型土器（No.6）1点／野首遺跡火炎型・王冠型土器12点、三角形土偶3点 計16点	特別展「縄文—1万年の美の鼓動—」
	独立行政法人 国際交流基金	国宝・笹山遺跡火炎型土器（No.5）・王冠型土器（No.16）2点／野首遺跡ほか火炎型土器破片119点 計121点	ジャポニスム2018「深みへー日本の美意識を求めてー」（会場：パリ・ロスチャイルド館）
		国宝・笹山遺跡火炎型土器（No.1）1点	ジャポニスム2018「縄文」（会場：パリ・日本文化会館）
	津南町農と縄文の体験実習館なじょもん	森上遺跡土器7点／笹山遺跡石器12点 計19点	秋季特別展「火炎土器の魅力」
	沖縄県立博物館・美術館	赤羽根・笹山・幅上遺跡土器10点／野首遺跡石器12点／狐窪遺跡垂飾1点 計23点	特別展「縄文と沖縄—火炎型土器のシンボリズムとヒスイの道—」
	山形県舟形町教育委員会	国宝・笹山遺跡火炎型土器No.1 レプリカ1点	縄文の女神まつり2018
平成31・令和元年度	香川県立坂出高等学校	国宝・笹山遺跡火炎型土器No.1 レプリカ1点	美術授業での土器制作
	新潟県埋蔵文化財センター	森上・カウカ平A・笹山遺跡火炎型土器 計3点	常設展示室での展示（4～8月、9～12月、1～3月）
		南雲遺跡大珠2点、寿久保遺跡大珠1点、長者原遺跡勾玉1点、楓花遺跡ヒスイ加工品1点 計5点	秋季企画展「海をわたったヒスイ」
	長岡市馬高縄文館	野首遺跡深鉢11点、土製品25点、石製品3点 計39点	夏季特別展「馬高式土器とその文化」
		中島遺跡深鉢5点・土偶4点・石棒2点 計11点／寿久保遺跡深鉢1点／野首遺跡深鉢2点 計14点	秋季特別展「三十稻場式土器とその文化」
	津南町農と縄文の体験実習館なじょもん	野首遺跡・樽沢開田遺跡出土品ほか 計26点	秋季特別展「技と造形の縄文世界」
	新潟県立歴史博物館	国宝・笹山遺跡火炎型土器（No.6）1点、笹山遺跡火炎型・王冠型土器2点 計3点	特別展「国民の文化財 あ、これ知ってる！はにわ、どぐう、かえんどきの昭和平成」
	星と森の詩美術館	スノリア工芸品ほか 計17点	「没後40年、星裏一もう一つの挑戦」
	新潟市歴史博物館	蕪木元昭家文書 1点	「新潟港開港150周年記念展」

表12 実物資料の貸出（令和2年度～令和4年度）

年度	貸出先	資料名（点数）	目的（展覧会名など）
令和2年度	津南町農と縄文の体験実習館なじょもん	野首遺跡土器16点、笹山遺跡土器4点、森上遺跡土器1点 計21点	秋季特別展「千曲川一信濃川流域の縄文文化・火焔土器前夜の世界ー」
	府中市美術館	野首遺跡火焔型土器1点	「日本の美を貫く 炎の筆<線>」展
	長岡市馬高縄文館	赤羽根遺跡土器5点、千溝遺跡土器1点、清津宮峯遺跡土器 計7点	秋季特別展「大武遺跡と縄文前期の土器文化」
	茨城県立歴史館	国宝・笹山遺跡火焔型土器（No.3・9）2点、森上遺跡火焔型土器ほか4点、寿久保遺跡大珠1点 計7点	特別展「Jomon Period—縄文の美と技、成熟する社会ー」
	(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団	国宝・笹山遺跡火焔型土器レプリカ（No.6）1点	常設展示室での展示（8～3月）
	新潟県立歴史博物館	アンギン衣服3点	体験事業
	津南町教育委員会	千溝遺跡土器1点、久保寺南遺跡土器レプリカ1点 計2点	レプリカ製作
	国立民族学博物館	越後縮・マジョリカ・黒絵羽織ほか	特別展「復興を支える地域の文化ー3.11から10年ー」
令和3年度	国立民族学博物館	越後縮・マジョリカ・黒絵羽織ほか	特別展「復興を支える地域の文化ー3.11から10年ー」
	津南町農と縄文の体験実習館なじょもん	城之古遺跡弥生土器ほか47点、牛ヶ首遺跡土器2点、新座原遺跡石器1点、馬場上遺跡土器ほか30点、下ノ原遺跡土器65点、柳木田遺跡土器31点、上屋敷遺跡紡錘車1点、千溝遺跡土器ほか13点、内後遺跡土器1点 計191点	秋季特別展「魚沼地方の古代ー山里のなりわいと交流ー」
	長野県立歴史館	国宝・笹山遺跡火焔型土器（No.2）、国宝・王冠型土器（No.15）、国宝・深鉢形土器（No.21・44）、野首遺跡火焔型土器1点、幅上遺跡火焔型土器ほか6点、国宝・笹山遺跡火焔型土器（No.1）レプリカ1点 計12点	秋季企画展「全盛期の縄文土器」
	長岡市馬高縄文館	千溝遺跡土器12点、久保寺南遺跡土器18点、石器14点、真萩田遺跡土器18点、清津宮峯遺跡土器3点、石器8点、おざか清水遺跡土器12点、田沢遺跡土器37点、石器16点 計138点	特別展「信濃川流域の縄文草創期・早期の土器文化」
	岩宿博物館	愛宕山遺跡舟底形石器1点	第75回企画展「相沢忠洋と岩宿遺跡研究」
	新潟県立歴史博物館	野首遺跡火焔型土器1点、野首遺跡王冠型土器1点、千溝遺跡微隆起線文土器1点 計3点	冬季テーマ展「やきもの産地・新潟」
令和4年度	新潟県立歴史博物館	野首遺跡火焔型土器1点、野首遺跡王冠型土器1点、千溝遺跡微隆起線文土器1点 計3点	夏季テーマ展「重要文化財・村尻遺跡出土品」
	津南町農と縄文の体験実習館なじょもん	内後遺跡土器 13点	秋季企画展「苗場山麓1,800万年の軌跡」
	津南町農と縄文の体験実習館なじょもん	赤羽根遺跡土器 一式	調査研究のため
	長岡市馬高縄文館	樽沢開田遺跡土器4点・土偶14点・土製耳飾26点 計44点	特別展「藤橋遺跡と縄文晩期の土器文化」
	新潟県立歴史博物館	南雲遺跡大珠3点、寿久保遺跡大珠1点、長者原A遺跡勾玉1点 計5点	ヒスイ「県の石」指定記念ミニ展示
	長野県立歴史館	森上遺跡火焔型土器1点	資料相互貸借

表13 写真資料の貸出（平成26年度～平成28年度）

年度	貸出先	出版物	貸出資料	備考
平成26年度 (110件)	文英堂	『スーパー歴史年表』	国宝・ 笹山遺跡火焔型土器	中学校問題集
	(有)アート・エフ	『中3 夏期講座テキスト』		中学校教科書
	株東京書籍	『新編 新しい社会 歴史』		小学校資料集
	株光文書院	『社会科資料集 6年』		小学校問題集
	株光村教育図書	『あかねこ夏スキル 6年』		
	光ミュージアム	特別展『エジプトvs縄文』展示パネル		
	株平凡社	『別冊太陽 日本美術史入門』		
	株アッシュ	『絶対に見ておきたい 日本の国宝』		
	株セブンクリエイティブ	『はじめての土偶』	野首遺跡 三角形土偶	
	株広告と写真	環境情報誌『SAFE』	雪室	
平成27年度 (141件)	株グレイル	『戦国大名格付け』	青苧、苧	
	株はる制作室	『図解 邪馬台国と卑弥呼』	豊穴のすまい（考古展示）	
	株ポプラ社	『日本の歴史 I 縄文人と弥生人』	国宝・ 笹山遺跡火焔型土器	
	東京藝術大学出版会	『国宝 精選 工芸品・考古資料』		
	株西東社	『超ビジュアル！ 日本の歴史大事典』		
	株光村教育図書	『美術 1』		中学校教科書
	株実教出版	『高校日本史B 新訂版』		高校教科書
	株教育出版	『小学社会デジタル教科書 6年』		小学校教科書
	株NHKエデュケーション	『美術史年表』		
	株NHKエデュケーション	NHK Eテレ「びじゅチューン！」		
平成28年度 (156件)	朝日新聞出版	『日本発掘！ ここまでわかった日本の歴史』	国宝・ 笹山遺跡火焔型土器 野首遺跡土器	
	株小学館	『日本美術全集 日本美術創世紀（縄文・弥生・古墳時代）』		
	株はる制作室	別冊宝島『骨からわかる日本人の起源』	ジオラマ（豊穴住居内）	
	株学研プラス	『パーフェクトコース 中学社会 改訂版』	ジオラマ（秋の一日）	中学校問題集
	株東京法令出版	『ポイント整理日本史』	国宝・ 笹山遺跡火焔型土器	高校問題集
	(有)アート・エフ	『2017センター試験実践問題集 日本史B』		中学校問題集
	株ユニフォトプレスインター・ショナル	『標準新演習社会中2 夏季テキスト』		小学校問題集
	栃木県連合教育会	『夏休みの友・6年』		
	株阿部出版	『日本近現代陶芸史』		
	株小学館クリエイティブ	『はじめて出会う日本美術』		
	株誠文堂新光社	『新しい 縄文の教科書』		
	株エディット	『ノジユール』10月号		
	株便利堂	『国宝辞典』第四版		
	株グレイル	別冊宝島『万葉集とは何か』	館内展示「栗ノ木田遺跡の配石墓」	
	株悠工房	『しあげパワーアップ 6年』	笹山遺跡出土 石鎌	小学校問題集
	株ベストセラーズ	『歴史人』4月号	青苧	
	ハースト婦人画報社	『美しいキモノ』2016年冬号	越後縞の紡織用具及び関連資料	

表14 写真資料の貸出（平成29年度～令和元年度）

年度	貸出先	出版物	貸出資料	備考
平成29年度 (157件)	株式会社 シュヴァン	京都造形芸術大学『芸術史講義』	国宝・笹山遺跡火焔型土器	大学講義資料
	(株)日本教材システム	『2017年度 追手門学院大学 入学試験問題集』		高校問題集
	(株)ベネッセコーポレーション	『2017年度 夏の特別Challenge 中1』		中学校問題集
	(株)乙会	『中学受験コース』		小学校問題集
	栃木県連合教育会	『夏休みの友・6年』		小学校問題集
	(株)宝島社	『TJMOOK 国宝への誘い』		
	(株)小学館	『和樂 10・11月号』		
	(株)いきもん	布製ポーチ		カプセルトイ
	NHK	『北斎展&国宝展 開催記念 びじゅチューン！井上涼のニッポン美術祭り』		イベント
	(株)八海醸造	リーフレット	雪室	
	(株)敬文舎	『縄紋時代史 I』	信濃川・清津川合流地点	
	(株)アム・プロモーション	『縄文カレンダー2018』	干溝遺跡 隆起線文土器	
	(株)戎光祥出版	『上杉謙信』	越後縮で仕立てた袈裟	
	(株)テレコムスタッフ	「英雄たちの選択 木曾義仲」	木曾義仲（児玉輝彦 作）	TV番組
平成30年度 (197件)	(株)アプロ	『平成30年度 第1回栃木県立高 オープン模試 社会』	国宝・笹山遺跡火焔型土器	模試
	(有)アート・エフ	『2018百戦錬磨 塙用テキスト』		問題集
	(株)乙会	『中学受験コース 5年生』		小学校問題集
	早稲田大学文学学術院	「日本考古学概説」		講義教材
	朝日出版社	『縄文折り紙』		
	縄文ZINE編集部	『縄文力で生き残れ』		
	(株)小学館	『小学館ウイークリーブック ニッポンの国宝100』		
	(株)IVSテレビ制作	ネブリーグ		TV番組
	NHK	特別展「縄文－1万年の美の鼓動」展		特別展
		「歴史秘話 ヒストリア 縄文の美」		TV番組
	(株)平凡社	『新版 縄文美術館』	野首遺跡出土 石器	
	(株)敬文舎	『リトルトーキョーライフ質問道場～縄文時代～』	土製耳飾り	TV番組
	(株)ウォショク	AreaB こがね牧農舎内「雪室熟成」	雪室に関する画像	中学校問題集
令和元年度 (180件)	京都工芸繊維大学	『一般入試 総合問題（デザイン・建築学課程）』	国宝・笹山遺跡火焔型土器	入試問題
	(株)帝国書院	「教科書表紙」		教科書
	(株)テレコムスタッフ	「英雄たちの選択 原始日本SP」		TV番組
	(株)エッジュ	NHK BS8K4K「8K 国宝シリーズ プロlogue」		TV番組
	(株)TBSスパークル	「彩～日本遺産～」		TV番組
	南魚沼市教育委員会	特別展『雪の恩返し～越後上布・米・鈴木牧之と北越雪譜～』	「越能山都登」糸くり・撚りかけ	
	新潟市歴史博物館	第16回むかしのくらし展『布とむかしのくらし』	蚕、カラムシ	

表15 写真資料の貸出（令和2年度～令和4年度）

年度	貸出先	出版物	貸出資料	備考
令和2年度 (223件)	株光村教育図書	『あかねこ夏スキル 社会科ページ』	国宝・笹山遺跡火焔型土器	小学校問題集
	株アプロ	『わからないをわかるにかえる中学歴史』		
	(有)ユーフォリアファクトリー	『TRANSIT48号』		
	株むしか	『るるぶびじゅチューン！』		
	株NHKエデュケーションナル	イベント「びじゅチューン！ライブin真夏の能楽堂2020」		イベント
		ウェブ「チコちゃんといっしょに課外授業」		映像配信
	株明治図書出版	『よくわかる国語の学習3』		無官太夫熱盛（児玉輝彦筆）
令和3年度 (133件)	株テレビ朝日	「戦国大名総選挙」	越後縮	TV番組
	株光村推古書院	『かわいい古代』（著者：譽田亜紀子）	国宝・笹山遺跡火焔型土器	
	株グレイル	『国宝の地図帳 ハンディ版』		
	株かみゆ	『物語で読む 国宝の謎100』		
	一般財団法人 小原流	『小原流 押花 11月号』		
	株NHKエンタープライズ	「歴史探偵 参勤交代」	博物館 展示室内 等（撮影）	TV番組
	株悠工房	『高校合格への道 要点と対策 社会』		中学校問題集
	株戎光祥出版	『図説 上杉謙信』		カラムシ、青苧
	テレビ東京・BSテレビ東京	「新・美の巨人たち～国宝『火焔型土器』と縄文アート×本仮屋ユイカ～」		TV番組
	TBS系列	「世界ふしぎ発見！～縄文ワンダフルライフ～」		TV番組
令和4年度 (141件)	BSテレビ東京	「戦国三大武将の経済学」		TV番組
	株ディスカバー・ジャパン	『Discover Japan 2022年9月号』	国宝・笹山遺跡火焔型土器	
	株小学館	『小学館版 学習まんが日本の歴史』		
	株フィギューリング	『いま絶対に見ておくべき日本の国宝』		
	株扶桑社	『Numero TOKYO 12月号』		
	株日経映像	テレビ東京「新美の巨人たち」		TV番組
	株リタピクチャル	番組「アートなんかいらない！」	縄文土器5点	放送
	株柏書房	『土偶大事典』	カウカ平遺跡、笹山遺跡、大井久保遺跡、樽沢開田遺跡、野首遺跡の土偶	
	株かみゆ	JTBのMOOK『るるぶ縄文』	国宝・笹山遺跡出土深鉢形土器、博物館外観、展示物・館内の様子 など	
	株ワイズカンパニー	『KAZE NETWORK NEWS vol.283』		

表16 博物館実習生に関するデータ（昭和55年度～令和4年度）

年度	人数	大学名	備考
昭和55年度	1	東北福祉大学	
昭和56年度	1	和洋女子大学	
昭和57年度	1	東北福祉大学	
昭和58年度	1	新潟大学	
昭和59年度	1	新潟大学	
昭和60年度	2	東北福祉大学、専修大学	
昭和61年度	1	和洋女子大学	
昭和62年度	0		
昭和63年度	1	東北福祉大学	
平成元年度	0		
平成2年度	2	東京学芸大学、新潟大学	
平成3年度	3	新潟大学（3）	
平成4年度	5	東京学芸大学、駒沢大学、群馬大学、新潟大学、上越教育大学	
平成5年度	5	静岡大学、新潟大学（4）	
平成6年度	2	専修大学、駒沢大学	
平成7年度	4	金沢学院大学、帝京大学、新潟大学（2）	
平成8年度	1	群馬県立女子大学	
平成9年度	5	群馬県立女子大学、駒沢大学、帝京大学、愛知学院大学、日本福祉大学	
平成10年度	4	目白大学（2）、長岡造形大学、筑波大学	
平成11年度	4	新潟大学、長岡造形大学（2）、米沢女子短期大学	
平成12年度	3	東海大学、白梅学園短期大学、千葉大学	
平成13年度	5	長岡造形大学、国士館大学、東京女子大学、京都橘女子大学、共立女子大学	
平成14年度	5	東洋大学、江戸川大学、米沢女子短期大学、駒沢大学、立正大学	
平成15年度	5	都留文科大学、上越教育大学、大正大学、帝京大学、新潟大学	
平成16年度	4	金沢学院大学、京都橘女子大学、大正大学（2）	
平成17年度	2	東海大学、麻布大学	
平成18年度			
平成19年度			
平成20年度	2	東海大学、愛知淑徳大学	
平成21年度	3	八洲学園大学、日本大学、長岡造形大学	
平成22年度	2	富山大学（2）	
平成23年度	3	跡見学園女子大学、新潟大学、大正大学	
平成24年度	4	日本女子大学、川村学園女子大学、新潟産業大学（2）	
平成25年度	3	新潟産業大学、東海大学、東京農業大学	
平成26年度	3	金沢学院大学、長岡造形大学（2）	職場体験（中学生）7名
平成27年度	1	新潟大学	職場体験（中学生）4名
平成28年度	3	昭和女子大学、鶴見大学、東海大学	職場体験（中学生）5名
平成29年度	5	新潟大学（2）、新潟産業大学（2）、龍谷大学	職場体験（中学生）●名
平成30年度	0		職場体験（中学生）9名
平成31年・令和元年度	1	目白大学	職場体験（中学生）6名
令和2年度	1	米沢女子短期大学	
令和3年度	0		職場体験（高校生）1名
令和4年度	0		職場体験（中・高校生）7名